

新潟県立出雲崎高等学校 教職員研修

# B-SAFEの概要と分析・活用(後半)

本研修資料は公益財団法人学校教育開発研究所(AISES)による資料などを参考に本校で作成したものです。  
つきましては、本研修資料に関するご意見やご質問等がありましたら、本校までお願いいたします。



1. 日本社会のこどもを取り巻く状況
2. 包括的プログラムと生徒指導の重層的支援構造
3. スマホの世界と現実の社会
4. 1層目を担う職員への後方支援の充実
5. B-SAFEの活用

## (1) B-SAFE とは？

(2) いじめの実態把握

(3) いじめの予防対策 -1- 能力・支援

(4) いじめの予防対策 -2- 学級風土

6. 最後に

# B-SAFEとは？

B-SAFEは

「より良い学級のための能力と取り組み、友人や教師、  
経験に関する質問紙」

(scale for **B**etter class on **S**kills, **A**ctions,  
**F**riends/teachers and **E**xperiences. : ビーセイフ)

の略称です。

# より良い学級のための尺度 (B-SAFE)



## いじめ対処も予防も支援する

### より良い学級のための尺度 (B-SAFE) の強み

- ネットいじめも把握！（不要の場合は、12項目削減可能）
- 個別と学級の状況が一目でわかる！
- 同年代の子どもの数値と比較した偏差値を算出  
→少人数や小規模校でも正確に状態が把握できる
- いじめがない学級でも予防すべき点の有無がわかる
- アンケート項目は最大55項目と少し多め  
→「いじめの実態」「支援すべき点」「支援方法」がわかる

＜最近1週間の行動調査＞以下の質問では、10の行動のした経験、された経験、目撃経験について尋ねます。学級全体としてよりみんなが笑顔で生活できるように尋ねるので、出来るだけ正直にお答えください。

いじめ行動  
・認知

## 質問

＜回答選択肢＞

加害・被害については 0=0回, 1=1回, 2=2回, 3=3回, 4=4回, 5=5回  
認知については 0=0人, 1=1人, 2=2人, 3=3人, 4=4人, 5=5人以上  
(※全質問の最初に (最近1週間) と記されている)

AISES

1 4 7	質問項目はB-SAFEの申し込みによりご確認ください	間接いじめ
10 13 16		直接いじめ
19 22 25 28		ネットいじめ

**いじめ行動3種類（間接・直接・ネット）×自身の関わり3分類（加害者・被害者・観察者）**

<回答選択肢>

1=全くあてはまらない, 2=あてはまらない, 3=どちらともいえない, 4=あてはまる, 5=とてもあてはまる

質問

1	質問項目はB-SAFEの申し込みによりご確認ください	教師サポート
2		友人サポート
3		いじめ処理能力
4		価値観
5		教師サポート
6		友人サポート
7		いじめ処理能力
8		価値観
9		教師サポート
10		友人サポート
11		いじめ処理能力
12		価値観
13		教師サポート
14		友人サポート
15		いじめ処理能力
16		価値観

いじめに対処する力の評価 = 2観点（自身の能力・周囲からのサポート） ・ 4項目から質問

## 質問

学校での取り組みについてお答えください以下の取り組みなどが行われているか、「1あてはまらない/わからない」「2ややあてはまる」「3当てはまる」「4とてもよくあてはまる」の中からあてはまるものを選んでください。

取り組み

1	質問項目はB-SAFEの申し込みによりご確認ください	協力調和風土
2		スキル向上
3		
4		いじめ防止
5		
6		
7		
8		
9		

**いじめを生まない学級風土の評価**

**= 3観点（協力調和風土・スキル向上・いじめ防止） ・ 9項目から質問**

https://assessment.aises.info/mypage/

アセス

No.	学校名 (アンケート名)	集計ID	年度	詳細	実施状況	申込数	クラス数									開始日	終了日	
							小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2			高3
1			2024年度	表示	81/81名 (100%)	81	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	2024/4/22	2024/5/24
2			2024年度	表示	75/81名 (92.6%)	81	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	2024/10/1	2024/10/31
3			2024年度	表示	0/81名 (0%)	81	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	2025/1/1	2025/1/31

見たいアンケートを  
クリック

B-SAFE

No.	学校名 (アンケート名)	集計ID	年度	詳細	実施状況	申込数	クラス数									開始日	終了日	
							小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2			高3
1			2024年度	表示	81/81名 (100%)	81	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	2024/4/22	2024/5/24
2			2024年度	表示	74/81名 (91.4%)	81	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	2024/11/1	2024/11/30
3			2024年度	表示	0/81名 (0%)	81	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	2025/2/1	2025/2/28

お問い合わせ

学校名 新潟県立出雲崎高等学校

氏名

検索

22:57  
2024/12/26

B-SAFE アンケート

アンケートコード <https://assessment.aises.info/assessment2/?id=hz2dz2z20000575>

アンケートID	898
アンケート名	<input type="text"/> <input type="button" value="設定"/>
アンケート期間	2024年4月22日～2024年5月24日
完了率	81/81名 (100%)

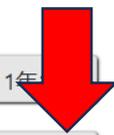
見たいクラスを  
クリック

前記偏差値・支援偏差値は偏差値で表示しています。偏差値40未満の部分は赤色、30未満は灰色で塗りつぶしています。

加害頻度・被害頻度については、5回以上を5として直接・間接・ネット行動ごとの合計回数を示しています。（ネットのみ4行動、他は3行動）平日5日で5回を超える場合、毎日と同義と捉え、注意喚起のために黄色で塗りつぶしています。

認知頻度は、「週に5回以上されている人は何人ですか？」と注意すべき人数がそのままわかるため、合計回数を示しています。

- 1年
- 1年2組
- 2年1組
- 2年2組
- 3年1組
- 3年2組



# 詳細な分析

# 能力・支援・風土

# いじめ調査アンケート



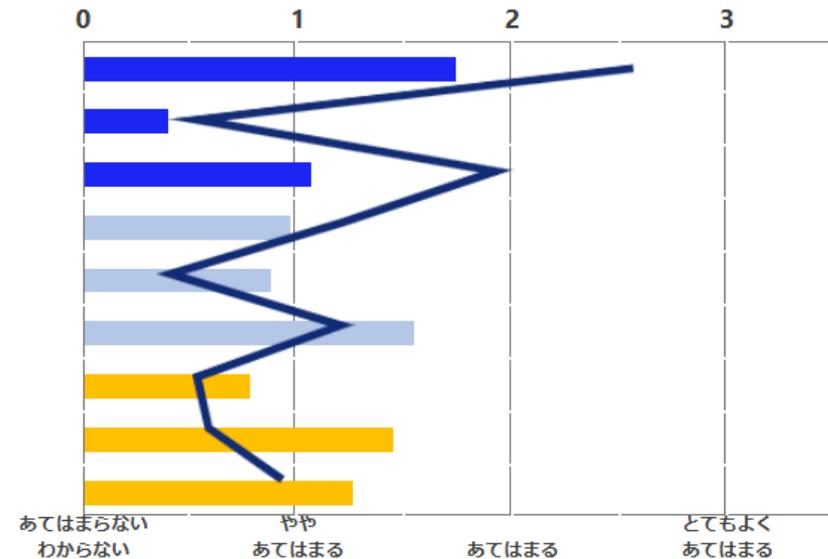
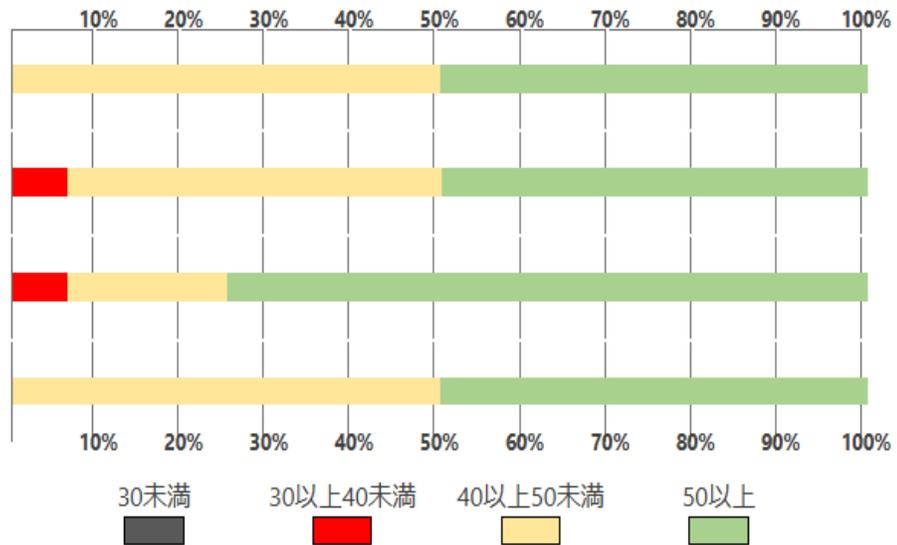
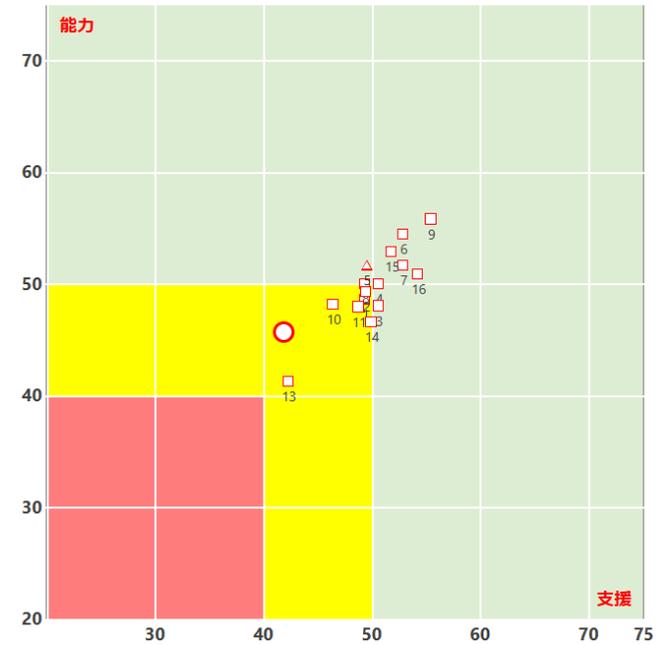
No.	反映	生徒		能力偏差値		支援偏差値		加害頻度			被害頻度			認知頻度		
		番号	回答日	いじめ 処理能力	価値観	友人 サポート	教師 サポート	直接	間接	ネット	直接	間接	ネット	直接	間接	ネット
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	51.7	49.7	51	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	51.7	49.7	48.7	50.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	46.1	45.1	43	45.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	48.9	46.6	49.9	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	37.8	42	47.6	47.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	50.3	52.8	53.3	49	0	0	0	0	1	0	0	1	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	51.7	49.7	47.6	49	0	5	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	55.8	54.3	48.7	55.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	50.3	51.2	53.3	51.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	51.7	52.8	53.3	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	47.5	49.7	49.9	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	57.2	55.9	53.3	50.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0



クラス全体集計はここをクリック（誰のも同じ表示）※ただし当該生徒のプロットのみ大きな○で表示

# 詳細な分析（学級集団結果）

種類	加害経験	被害経験	認知
直接いじめ	0 (0) /16人	0 (0) /16人	0 (0) /16人
間接いじめ	1 (0) /16人	0 (0) /16人	0 (0) /16人
ネットいじめ	0 (0) /16人	0 (0) /16人	0 (0) /16人



# 詳細な分析（個人回答結果）

B-SAFE調査結果 - AISESアセスメント

https://assessment.aises.info/mypage/result2/?code=jfej6zu&pid=575&uid=24313

## アンケートデータ

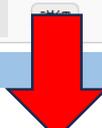
(1) 学校での人間関係やあなたの考え方について

1	質問項目はB-SAFEの申し込みによりご確認ください	■■■■
2		■□□□
3		■■■■
4		■■■■■
5		■■■■■
6		■□□□
7		■■■■■
8		■■■■■
9		■■■■■
10		■□□□
11		■■■■■
12		■■■■■
13		■■■■■
14		■■■■■
15		■□□□
16		■■■■■

23:00  
2024/12/26

1. 日本社会のこどもを取り巻く状況
2. 包括的プログラムと生徒指導の重層的支援構造
3. スマホの世界と現実の社会
4. 1層目を担う職員への後方支援の充実
5. B-SAFEの活用
  - (1) B-SAFE とは？
  - (2) いじめの実態把握**
  - (3) いじめの予防対策 -1- 能力・支援
  - (4) いじめの予防対策 -2- 学級風土
6. 最後に

No.	反映	生徒		能力偏差値		支援偏差値		加害頻度			被害頻度			認知頻度		
		番号	回答日	いじめ 処理能力	価値観	友人 サポート	教師 サポート	直接	間接	ネット	直接	間接	ネット	直接	間接	ネット
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	51.7	49.7	51	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	51.7	49.7	48.7	50.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	46.1	45.1	43	45.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	48.9	46.6	49.9	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	37.8	42	47.6	47.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	50.3	52.8	53.3	49	0	0	0	0	1	0	0	1	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	51.7	49.7	47.6	49	0	5	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	55.8	54.3	48.7	55.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	50.3	51.2	53.3	51.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	51.7	52.8	53.3	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	47.5	49.7	49.9	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細	2024年11月7日	57.2	55.9	53.3	50.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0



種類	加害経験	被害経験	認知
直接いじめ	0 (0) /16人	0 (0) /16人	0 (0) /16人
間接いじめ	1 (0) /16人	0 (0) /16人	0 (0) /16人
ネットいじめ	0 (0) /16人	0 (0) /16人	0 (0) /16人

**表示 分子 = 1 回でも「あり」で回答生徒人数（高頻度な生徒の人数） / 分母 = クラス生徒数**

- 生徒各々のいじめの立場( 加害のみ、被害のみ、加害・被害両方、どちらもなし )、いじめの種類( 直接、間接、ネット )、いじめの頻度がわかる
- 学級全体で注意すべき生徒が誰で、どの部分かがわかる
- 特に要注意なのは黄色の生徒である。(回数が多いので要注意)
- 加害・被害頻度については、5回以上を5として、ネットのみ4行動、他は3行動の合計、つまり直接・間接は15が、ネットは20が最大値です。
- 加害頻度・被害頻度は、平日5日で5回以上の場合も「5」として表示している。  
(登校日を5日/週と考えると、週のうち何日あったかと、ほぼ読み替えられる)
- 認知頻度は、「週に5回以上されている人は何人ですか？」との回答による要注意生徒を浮き出すもので、のべ合計人数を示している。

- いじめは教師が気付きにくいので、数値が高い生徒から接触をはじめめる。
- 個人の認知特性( 被害者意識の強さ 等 )の発見につながる可能性もある
  - クラスに目撃者も被害者も全然いないにも関わらず、一人だけ被害・目撃が多い場合などが時としてある。
    - その場合、
      - その生徒が敏感だったりする「認知のゆがみ」も考えられる。
        - 生徒の背景をみて、配慮が必要な生徒として扱う必要があるかもしれない。
- 学級集団のおおよその雰囲気を知ることができる



## 【回答】

① 直接いじめ、間接いじめ、ネットいじめで、加害したと回答した生徒が1人いるのみ。その生徒は5回行ったと回答している。  
(5回と数字が大きいいため、黄色で色塗りされている。)  
その生徒を除いて、いじめの報告はない。

② クラスにいじめはないと考えて良いだろう。

上記①の生徒は、「自分は何度も友達を仲間外れにして、仲間に心身の苦痛を与えた」という意識を持っているものの、その被害を訴えている生徒はいない。また、その加害行為を目撃した生徒の報告もない。

その結果と日常の観察結果をあわせて考えると、この生徒が何かしらナーバスになって、他者への気遣いをし過ぎているのかもしれない。  
(アセスとあわせて分析すると、より背景が見えると思われる。)

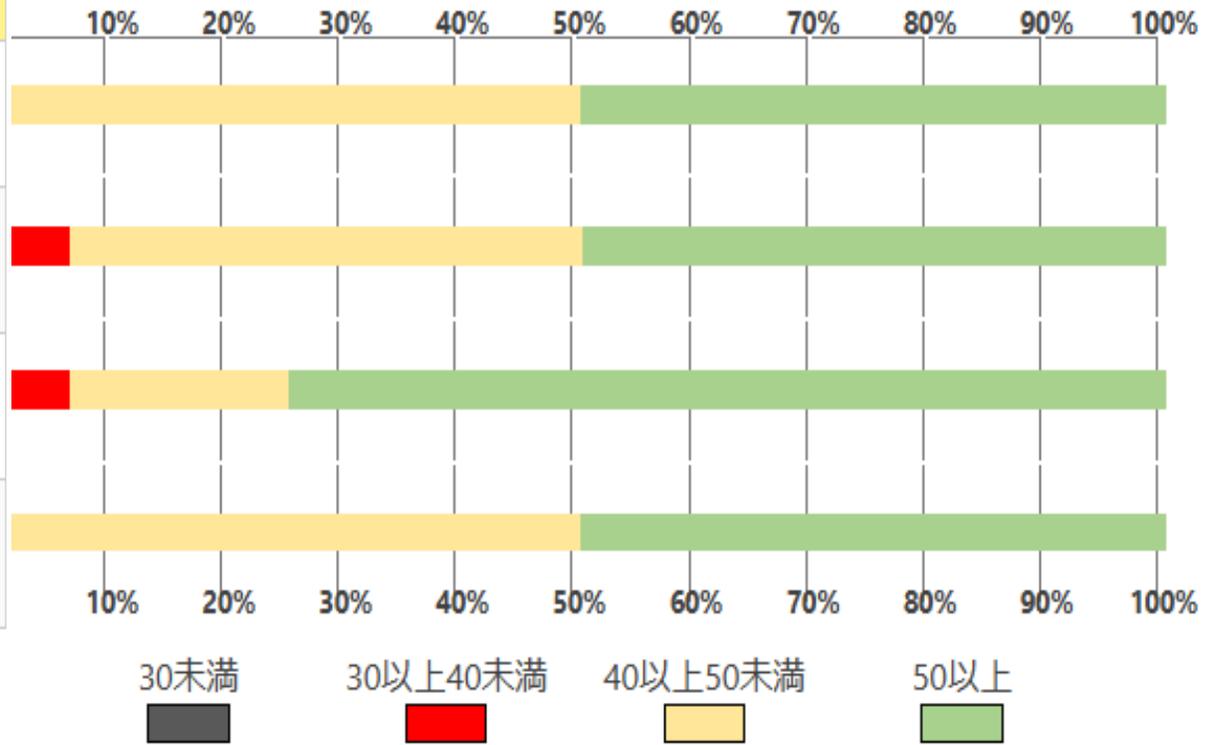
1. 日本社会のこどもを取り巻く状況
2. 包括的プログラムと生徒指導の重層的支援構造
3. スマホの世界と現実の社会
4. 1層目を担う職員への後方支援の充実
5. B-SAFEの活用
  - (1) B-SAFE とは？
  - (2) いじめの実態把握
  - (3) いじめの予防対策 -1- 能力・支援**
  - (4) いじめの予防対策 -2- 学級風土
6. 最後に



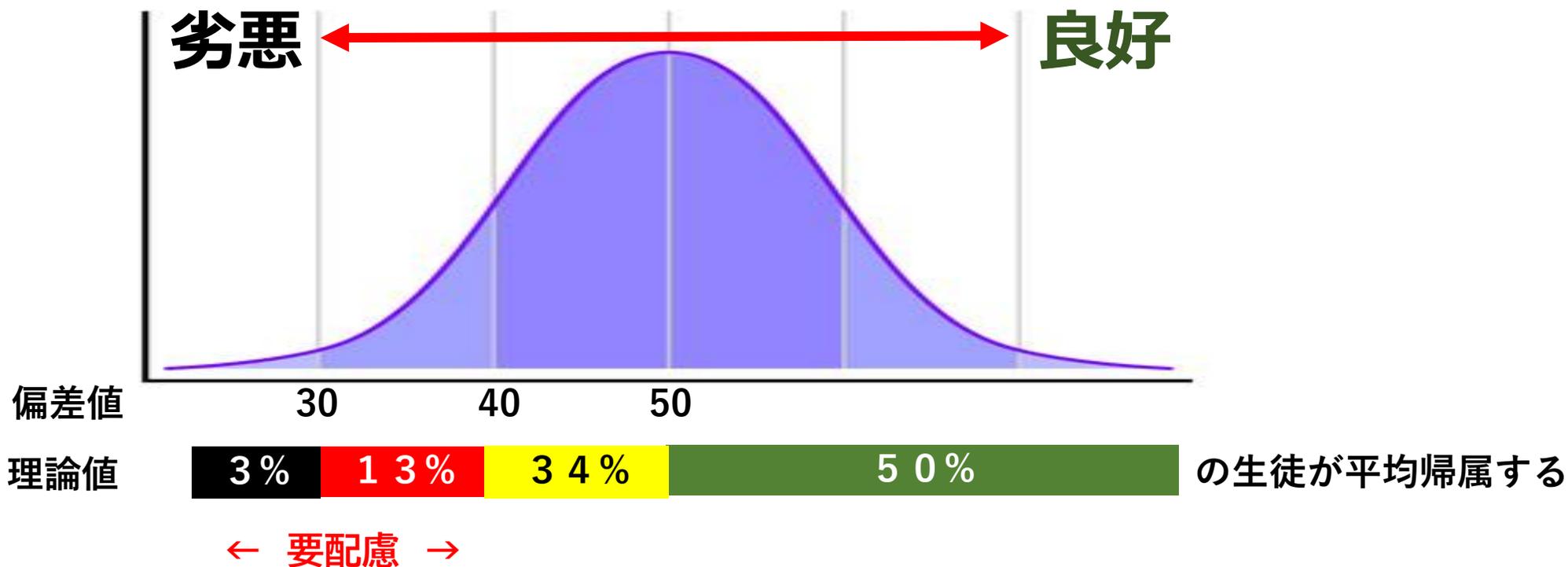
分類	名称	具体的な質問項目
能力	いじめ処理能力	「いじめを見かけたらやめるように言える」「いじめを見かけたら先生に伝えることができる」
	価値観	「間違いは素直に認められる」「いじめを見て何もしないことはいけないと思う」
支援	友人サポート	「困った時に相談に乗ってくれる友だちがいる」「自分を裏切らない友だちがいる」
	教師サポート	「先生は気持ちをよくわかってくれる」「先生は相談しやすい」

- 生徒各々のいじめに抗う能力( いじめ処理能力、価値観 )と、学級への安全・安心感(友人サポート、教師サポート)を推測できる
- 学級全体で注意すべき生徒が誰で、どこがポイントかがわかる
- 特に要注意なのは灰色、赤色の生徒である。  
(能力偏差値・支援偏差値は40未満は赤色、30未満は灰色で塗られている。)
- 教師自身の認識と生徒の回答にズレがないか、生徒一人ひとりについて、常日頃の観察結果と照らしあわせ、確認することも大切である。

分類	名称	具体的な質問項目
能力	いじめ処理能力	「いじめを見かけたらやめるように言える」「いじめを見かけたら先生に伝えることができる」
	価値観	「間違いは素直に認められる」「いじめを見て何もしないことはいけないと思う」
支援	友人サポート	「困った時に相談に乗ってくれる友だちがいる」「自分を裏切らない友だちがいる」
	教師サポート	「先生は気持ちをよくわかってくれる」「先生は相談しやすい」



# 全国標準はつぎのとおり



この色の分布とクラス結果を比較し、クラスの特徴をつかむ

緑色が50%  
黄色が34%  
赤色が13%  
灰色が3%

のクラスは全国標準である。 ※これとクラス結果を比較する

### 【赤色・灰色の生徒がいた場合】

その生徒がそう感じている主要因は 学級風土要因？ 個人要因？

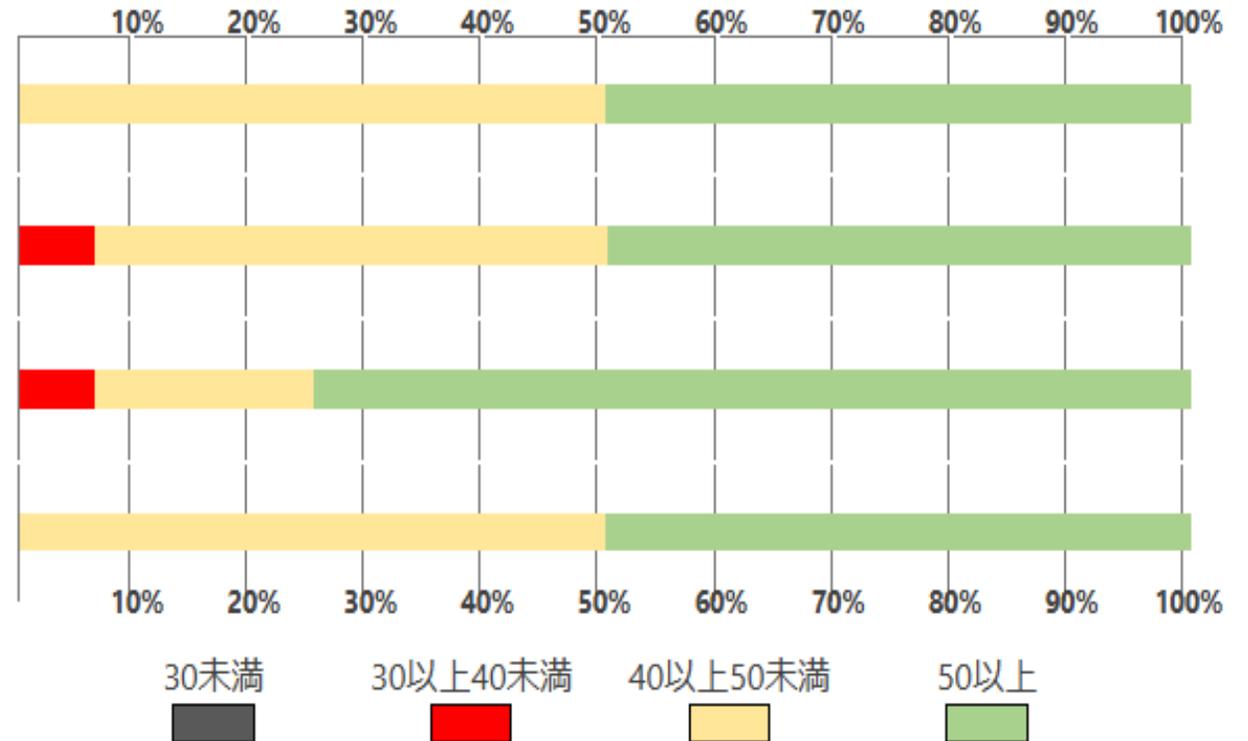
・緑が40%に満たない場合 = その分類項目の学級風土に課題がある

・緑が60%を超えている場合 = 赤・黒判定の個々の生徒に課題がある

( 緑が40～60%の場合は、あまり断定的なことは言えない。 )

## 【演習】

- ① このクラスの学級風土について説明してください。
- ② 赤色の部分の解釈をしてください。



※ グラフは上から、①いじめ処理能力、②価値観、③友人サポート、④教師サポート です。

## 【回答】

① 4項目全てにおいて緑が50%か、それ以上であり、全国標準と比べても問題はない(むしろやや良い)ので、学級風土にはおおよそ問題はないと考えて良い。

② 赤帯で分かるように、いじめに対する価値観(いじめ行為は悪いから、しっかりとり組みたいと考える温かい考え)に課題が感じられる生徒が1人いる。

その項目の緑帯は40～60%の範囲にあるので、この段階では、個人要因か学級風土要因かを明確に断定できない。

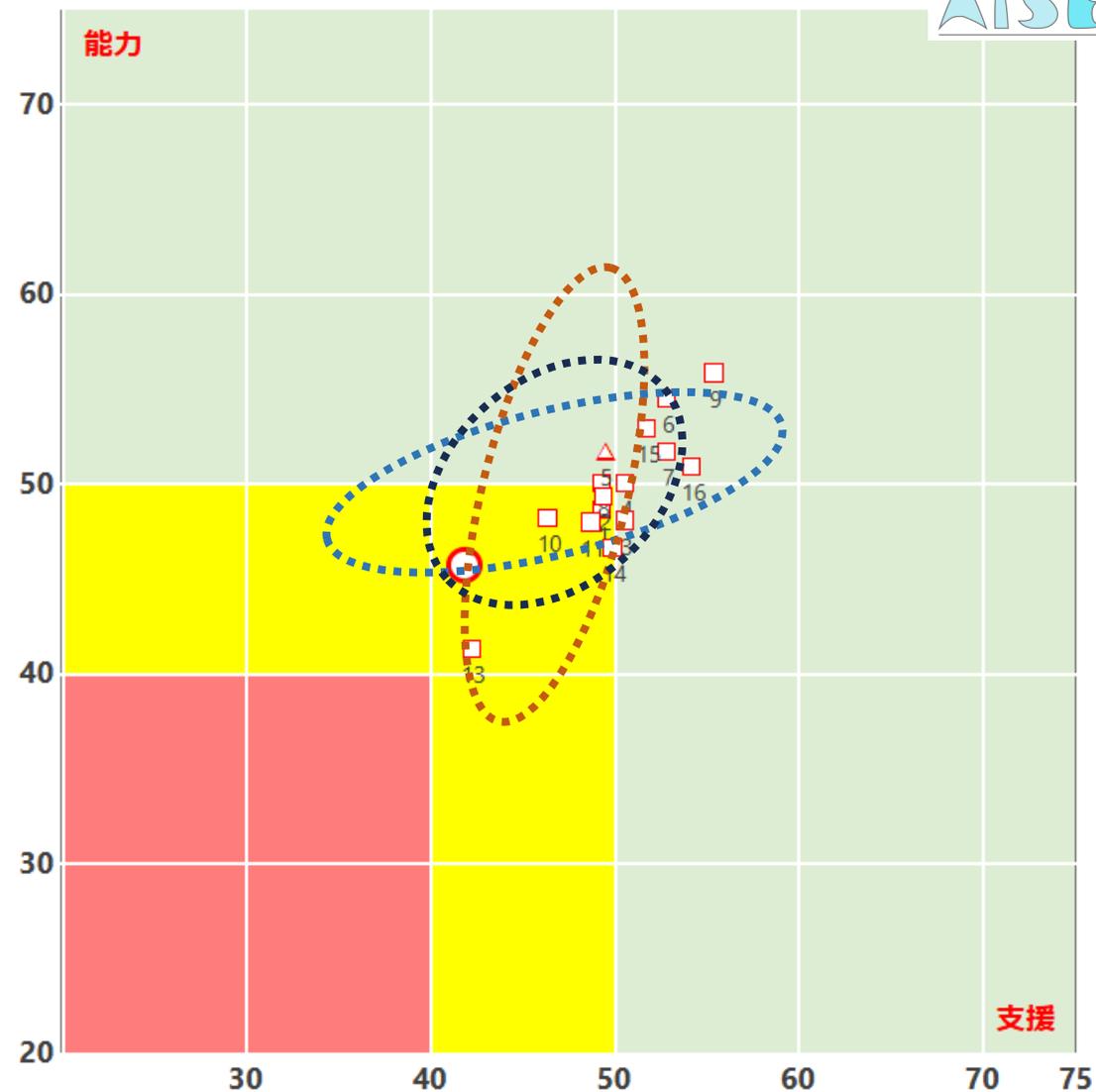
(アセスや日常の観察等を組み合わせアセスメントした方がよい。)

③ 友人からのサポートが弱く孤立傾向を感じる生徒もいる。

その項目の緑帯は60%を超えているので、その生徒の個人要因と考えて良いだろう。個人にフォーカスした適応支援が必要である。

(同じ生徒か否かは個人票を見て確認できる。今回は別生徒だった。)

分類	名称	具体的な質問項目
能力	いじめ処理能力	「いじめを見かけたらやめるように言える」「いじめを見かけたら先生に伝えることができる」
	価値観	「間違いは素直に認められる」「いじめを見て何もしないことはいけないと思う」
支援	友人サポート	「困った時に相談に乗ってくれる友だちがいる」「自分を裏切らない友だちがいる」
	教師サポート	「先生は気持ちをよくわかってくれる」「先生は相談しやすい」



「要配慮領域(赤)」の生徒…… 早急に当該生徒の対策へ（面談の実施へ）

【プロット全体の配置形】

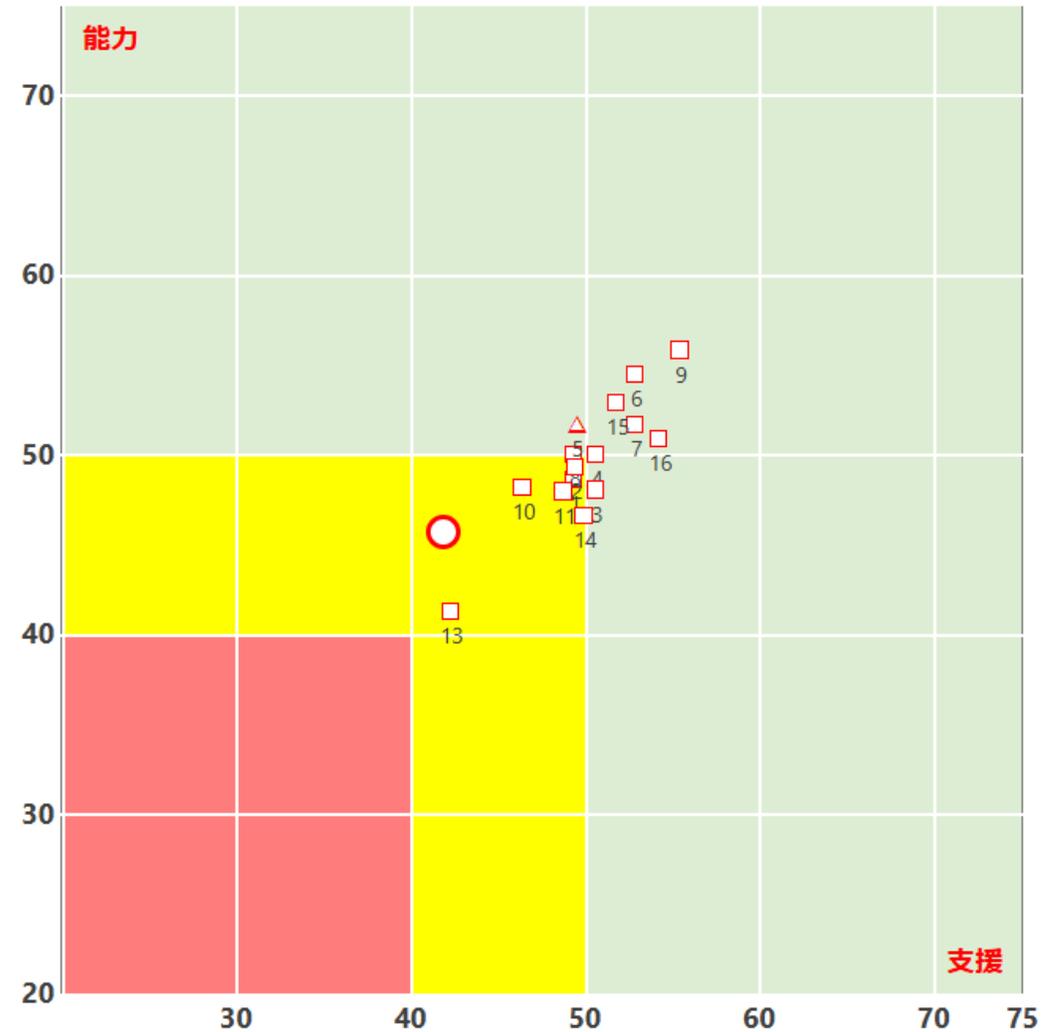
（一般的には、右斜め上に45度の角度で伸びる楕円になりやすい）

タテ長の楕円配置の場合…… いじめに関する能力の個人差に学級課題あり

ヨコ長の楕円配置の場合…… お互いを支えあう“学級風土”に学級課題あり

## 【演習】

- ① このクラスの学級風土について説明してください。
- ② 緊急に対応する生徒がいるか判断してください。



## 【回答】

① とくに学級風土に問題は感じられない。

それは、強いタテ型や強いヨコ型といったばらつきの異常さが認められないこと、また、能力と支援がおおよそ正比例しており、いじめに抗う能力のある生徒は、仲間からサポートが得られていると感じている“正常な仲間関係”が成り立っていることから推測できる。

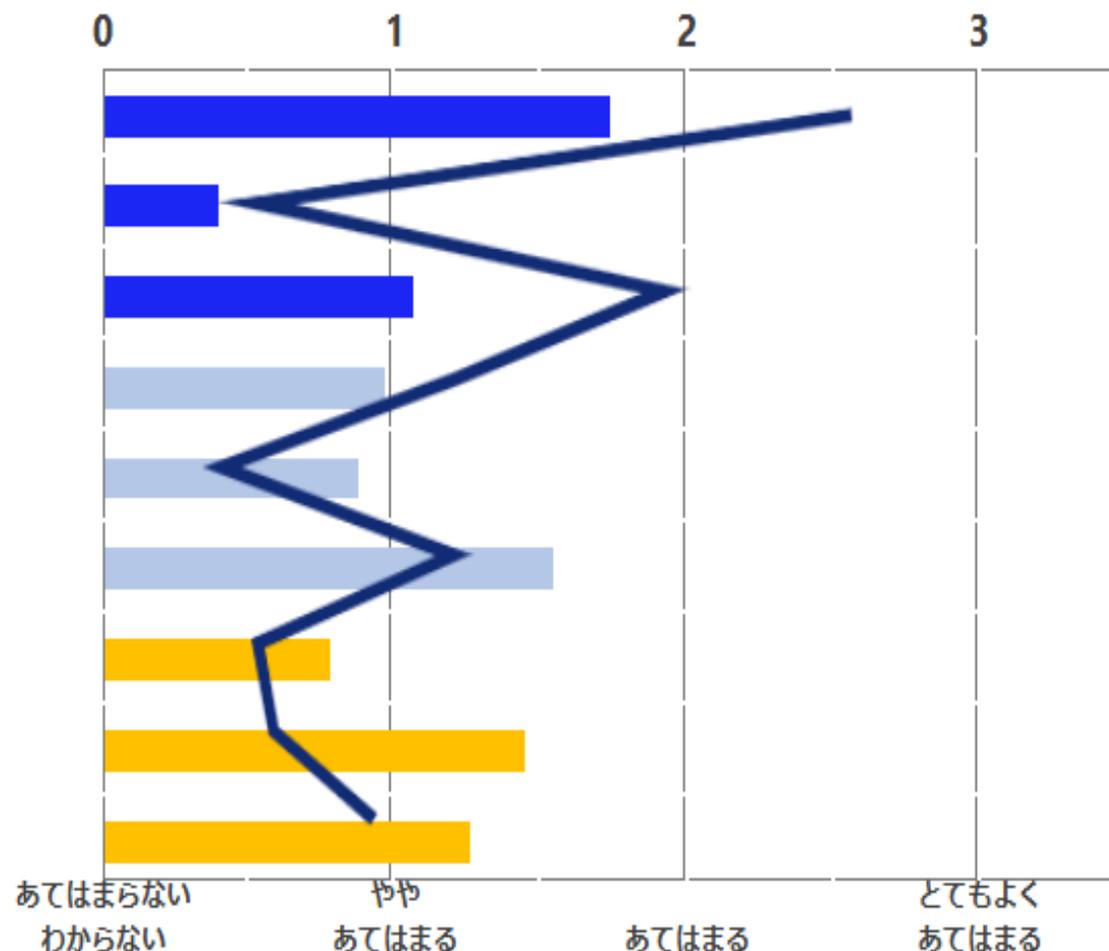
② 赤色ゾーンの生徒がいないのでクラスへの緊急対応はいまのところ、考えなくても良いと思う。しかし、もう少しで赤色ゾーンに入る生徒が1人いることに対する個別の配慮は必要である。

この一人の生徒はいじめに対応する能力がやや低く、教師や友人からのサポートも低いいため、アセスや日常の観察結果と照らしあわせ、支援方法を考えるとよいだろう。

1. 日本社会のこどもを取り巻く状況
2. 包括的プログラムと生徒指導の重層的支援構造
3. スマホの世界と現実の社会
4. 1層目を担う職員への後方支援の充実
5. B-SAFEの活用
  - (1) B-SAFE とは？
  - (2) いじめの実態把握
  - (3) いじめの予防対策 -1- 能力・支援
  - (4) いじめの予防対策 -2- 学級風土**
6. 最後に

【見方】 棒グラフ = 生徒の回答結果(学級平均値) 、 折れ線グラフ = 全国標準

分類	名称	具体的な質問項目
協力調和風土	規則遵守風土	約束や社会のきまりを守ろうとする考えが学校にある
	家庭地域連携	保護者と一緒に夏休みに学校清掃するなど、保護者が学校に来る機会がある
	学級協力風土	学級にはみんなで協力しようという雰囲気がある
いじめ防止	被害者理解	いじめられている人は何も悪くないと学校で教わっている
	対応組織	いじめをとめるように活動する係や委員会がある
	対応学習	学校ではいじめをとめる方法について学ぶ授業がある
スキル向上	ストマネ訓練	イライラしても上手にスッキリする方法を学校で学んでいる
	プレスト訓練	たくさんの解決策を考える練習を学校でしている
	関係構築活動	自分の学級でみんなが仲良くなるような活動をよくする



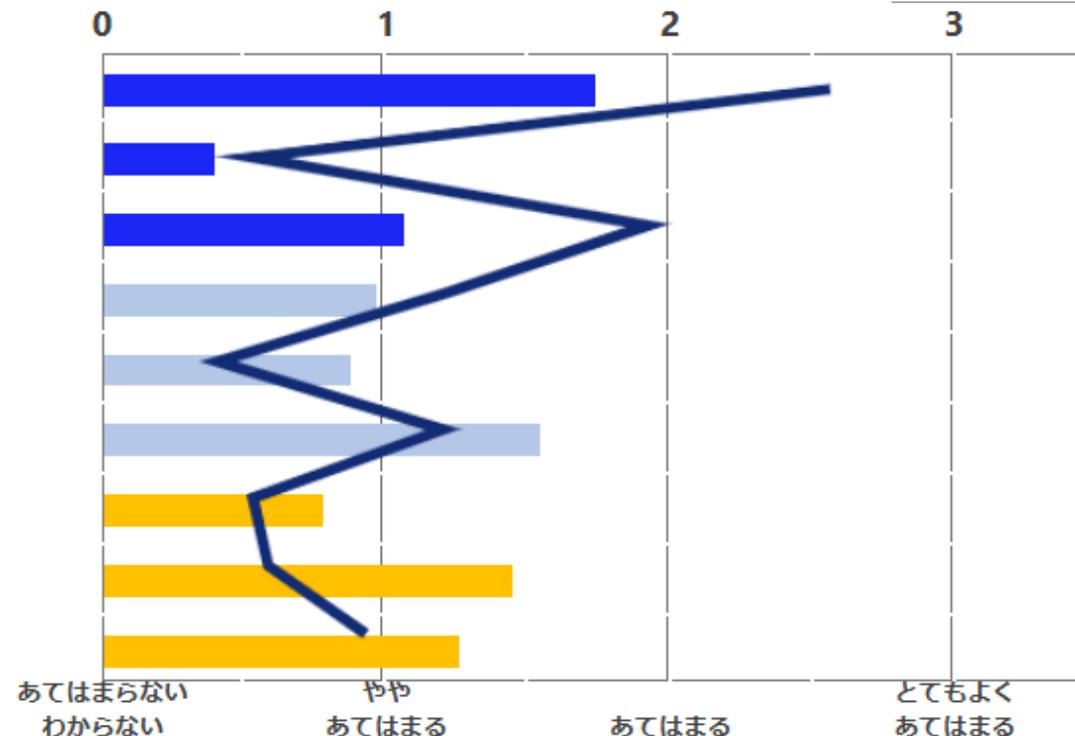
分類	名称	具体的な質問項目
協力調和風土	規則遵守風土	約束や社会のきまりを守ろうとする考えが学校にある
	家庭地域連携	保護者と一緒に夏休みに学校清掃するなど、保護者が学校に来る機会がある
	学級協力風土	学級にはみんなで協力しようという雰囲気がある
いじめ防止	被害者理解	いじめられている人は何も悪くないと学校で教わっている
	対応組織	いじめをとめるように活動する係や委員会がある
	対応学習	学校ではいじめをとめる方法について学ぶ授業がある
スキル向上	ストマネ訓練	イライラしても上手にスッキリする方法を学校で学んでいる
	ブレスト訓練	たくさんの解決策を考える練習を学校でしている
	関係構築活動	自分の学級でみんなが仲良くなるような活動をよくする

- ・いじめの抑制と因果関係の強い9つの活動(3分類)を全国平均と比較し、クラスの特徴を浮き上がらせたもの。  
(同年代の生徒の数値と比較した偏差値を算出するので、少人数や小規模校でも正確な状態が把握できる。)
- ・そのクラス活動の取組に対する生徒の認識から、学校(年次、学級)教育活動自体の課題を発見することができる。  
⇒ 課題解決策を分掌・委員会を含めた組織で考え、取り組む必要もある
- ・1層目の「日常の学級・授業」を成り立たせる「より良い学級風土づくり」のために、何をしたら良いかのポイントが分かる。  
(いじめがない学級であっても、更なる「次の一手」のヒントとなる。)

## 【演習】

- ① この学級が全国標準より優れている点は何ですか？
- ② この学級が全国標準より劣っている点は何ですか？
- ③ 上記の結果は、学校の教育活動にどのような課題があると考えられますか？

③ 今後、「授業」でどのような様にとり組めばいいか、その具体的なアイデアを挙げてみてください。



※ グラフは上から、**協力調和風土**（①規則遵守風土、②家庭・地域連携、③学級協力風土）、**いじめ防止**（④被害者理解、⑤対応組織、⑥対応学習）、**スキル向上**（⑦ストマネ訓練、⑧ブレスト訓練、⑨関係構築活動）です。

## 【回答】

- ① スキル向上において3項目とも良い結果である。
- ② 協力調和風土が弱い。特に、規則遵守風土、学級協力風土が課題
- ③ 上記①にあるように、生徒は、学校が授業で“対人スキル”等の指導はしてくれていると理解はしている。しかし、②にあるように、それを受けて、生徒同士で「みんなで規則を守ろう!」「仲間で協力し合おう!」という社会的な集団には、育ってはいないことが伺える。
- ④ 今ある学校(または先生)の指導や交流の頻度や強さを下げ(弱め)、その一方、生徒同士が主体的に交流するように仕掛けて、生徒集団を育てることを目指すとよいだろう。例えば、授業のなかで、協同学習に取り組み、その方法・ルールを遵守する大切さを考えさせ、絶対的な成果のない課題にみんなでとり組ませ、協同して答えを考え合う楽しい授業を行い、生徒の探究活動を先生が陰で支えるなどが、一例であろう。

1. 日本社会のこどもを取り巻く状況
2. 包括的プログラムと生徒指導の重層的支援構造
3. スマホの世界と現実の社会
4. 1層目を担う職員への後方支援の充実
5. B-SAFEの活用
  - (1) B-SAFE とは？
  - (2) いじめの実態把握
  - (3) いじめの予防対策 -1- 能力・支援
  - (4) いじめの予防対策 -2- 学級風土

## 6. 最後に

・時代は大きく変化してきています。  
それを受け、教育も同様に大きな変化の真っ只中です。（入口、中身、出口3点とも）

・しかし、その変化に学校が「モグラ叩き」的な対応をしては、経営資源の活用にアンバランスさが出たり、学校教育文化になじみにくい取組を強いたりする可能性もあるのではないのでしょうか。そうなると、自然と教育機能が低下するような気がします。

## 1層目を充実させる

・このことが教育を行う際の「基礎・基本」で、本質的に最も大切なことと考えます。

・では、多様な生徒一人ひとりを伸ばし輝かせる教育を実現するには、どうしたらよいのでしょうか？ その答えは、今回の研修で示したように、1層目（日常の教室・授業）の充実を図ること、そのための後方支援体制を組織的・計画的に強化し、それをマネジメントすることです。

・1層目の充実に向けた後方支援は、各分掌機能、委員会機能を「後方支援」の視点から捉えること、そして、更にその取組の前提として、生徒情報を職員間で共有し、アセスメントをしっかりと行い、それを「教育の土台」に据えることだと考えます。



一人ひとりを伸ばし、

輝かせる教育の実現

現在も脈打つ - 創立の心“心耕” -



◀ 本校は単位制の定時制高校です。

学校見学・説明会は随時受け付けております。  
お気軽にご相談・お問合せください。

一人ひとりを伸ばし、  
輝かせる教育の実現

現在も脈打つ - 創立の心“心耕” -

- ① 「魅力ある学校づくり」
- ② 日常の中に教師サポートを満たす  
→ そこからのドミノ倒しへ
- ③ あらゆる場面で  
※ 授業・HR・部活動・清掃 等々
- ④ 何か感じたら、“チーム学校”  
報連相→アセスメント→支援策→対応

# 参考にしてください

- 「マルチレベルアプローチ だれもが行きたくなる学校づくり  
～ 日本版包括的生徒指導の理論と実践」

栗原慎二 2017 ほんの森出版



- 『ブリーフセラピーを活かした学校カウンセリングの実際』

栗原慎二 2001 ほんの森出版

- 『アセス（学級全体と児童生徒個人のアセスメントソフト）  
の使い方・活かし方』

栗原慎二・井上弥 編著 2010 ほんの森出版